

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No.79



2018年8月

NPO 法人 日本バスケットボール振興会

目 次

○ シニア交歓大会 in YOYOGI に参加して	2
○ 「AKATSUKI FIVE」男子日本代表強化で躍進	1 1
FIBA ワールドカップ 2019 予選第 2 ラウンドへ進出	
○ 「AKATSUKI FIVE」女子日本代表WCへ好発進	1 5
国際強化試合結果とワールドカップ日程	
○ 京都の中学生初心者向けクリニック	総務部・普及部 . . . 1 9
○ 先人の軌跡 近藤茂吉	普及部 . . . 2 1
○ 人物抄 鹿子木 基員 さん	2 3
○ 会員だより	
日本のバスケットの歴史のひとこま	鹿子木基員 . . . 2 5
リングへ向かって飛べ 1 0 年後の子供たち	鈴木承二 . . . 2 9
その 1 : 美笹中学校女子バスケット部	
その 2 : ミニバスチーム・タカシックス	
○ 平成 3 0 年度インターハイの結果	3 3
○ Bリーグ 2018~19 シーズン	3 5
○ Wリーグ第 2 0 回大会(2018~19)競技日程	3 7
○ 日本協会平成 3 0・3 1 年度役員	3 9
○ 事務局だより	4 0
○ プラザ こぼればなし	4 1

シニア交歓大会 in YOYOGI に参加して

[編集部]

平成17年に始まったこの大会は、今年で11回目迎えたが、代々木第二体育館が長期工事のため使用できず、近くのオリンピック記念青少年総合センター体育館において開催された。

当初から参加しているチームもあれば、最近参加し始めたチームもある中、皆はつらつとプレーに臨む姿は高齢を忘れさせ、経験未経験を問わず何かしらの感動に結びついているようであった。

毎回参加者から感想文をいただいているが、その参加者たちが異口同音に発する言葉は、「バスケットを続けてきてよかった」もしくは「感動」という二言であった。

11年前、男子60歳以上女子50歳以上という参加資格で始まったこの大会に、当初から参加された方々も多いと思われる。11年前60歳代だった方は今回確実に70歳代となられており、元気で生涯バスケットボールに取り組まれているその姿は周囲を鼓舞させるものがある。

近年70歳以上の部が設けられたが、上記のことを勘案すれば当然の成り行きともいえよう。

代々木第二体育館が長期の全面改修工事のため、しばらくはバスケットボールメッカにおける開催とはいかないようだが、引き続きバスケット好きのシニアバスケットマンの元気な姿にお目にかかりたいものである。

以下に、お寄せいただいた今回大会の感想文を紹介する。

STARS OF STARS 岩間 良修さん

47年を経てバスケットボールと再開



約47年を経たバスケットボールとの再会は、約1年前に、思いがけないきっかけから何とはなしに始まりました。高校2年の時にバスケットボール部を退部し、以降は再びプレーすることなど

夢にも考えてもいなかったにも拘らず、47年を経た後再びコートに立っている自分に、時折不思議な感じを覚えております。

バスケットボールは中学入学時から始めました。高校進学にあたっては、バスケットボールが強いかどうかについては全く考えずに入学しましたが、当時県内では相応の強豪校で、勧誘されるがままに入部して約2年間、一生懸命部活動に励みました。しかし、県外チームとの対戦等を通じて痛感するのは、その実力差と自分の能力の限界等のみであり、バスケットボール自体が嫌いになった訳ではなかったのですが、大学進学後のバスケットボール継続は考えられずに、2年の秋に退部しました。

その後47年が経過した昨年3月、再会の機会は思いがけず訪れました。先輩から「東京地区の高校バスケットボール部OB会」への誘いがあり、途中退部の身分ではありましたが参加させていただきました。その際、名前は知っていたものの初めて会う大先輩から、「60歳を過ぎてもバスケットボールを楽しんでいる方々（大先輩を含め70歳超の方々も）がいる。すぐ上の先輩もいるので一度見学に来てみたら。」との誘いがありました。その頃私は、田舎に一人で住む母親の介護問題等もあり会社を退職した直後で、時間的余裕がある状況にあったので、物は試しとその約3か月後に練習を見学に行ったのです。

皆さん60歳を超えているにも拘らず澀瀬とコートを走り回り、肉体的に苦しそうな顔を見せつつも、笑顔を浮かべながらバスケットボールを楽しんでいる姿を見て、驚きを隠せませんでした。受けるパスのスピードに戸惑い、リングに届かないボールを歯がゆく思い、すぐ息切れする情けなさを感じる一方で、コートを走り、ボールを握り、ドリブル・パスをする瞬間には何となく不思議な高揚感も沸いて、懐かしい昔が戻ってくるような気分になりました。母親も常時付き添いが必要な状況にはないことから、皆さんの邪魔にならないようにしばらく続けてみようと思われ、その後も練習に参加させてもらい、メンバーの皆さまの暖かい思いやりに支えられて、本日に至っております。

長期のブランクによる体力不足、プレー経験年数の短さからくる技術不足・知識不足等改善すべき課題（改善できない課題が正解？）を数多く感じながらも、3年間貫徹できなかった高校での挫折の心残りを、少なからず埋めているような心持ちにもなってボールを追いかけています。

今回の交歓大会には男性60歳以上、女性50歳以上の14チームが参加しておりました。体の動きは若干ぎこちなく、足の踏ん張りももどかしいながらも、すべての方々が真剣にかつ一生懸命にボールを追いかけて、バスケットボールをエンジョイしている姿は素晴らしいものでした。皆様、それぞれ仕事、家庭等を抱えながら、またバスケットボールに携わっていなかった期間もきっとありながら、どんなきっかけで、またどんな思いでバスケットボールを再び始められたのだろうとの想いをめぐらしました。この歳になっても多くの方々が夢中になれるバスケットボールは、やはり楽しくおもしろいものなのだなという思いを改めて感じさせられました。

昨年は代々木第二体育館での開催でしたが、今年は耐震工事改修のため使用できなかったとのこと。殿堂ともいえる代々木のコートに立つことなどそもそも考えていなかった私にとって、今こうして再びコートに立っていることだけで十分なのですが、今後機会が与えられるなら、代々木のコートに立ってみたいとも思います。そのためには、チームの諸先輩のように永くバスケットボールを続けられるよう、体をいたわりながらも体力の維持を心がけていきたいと思っています。今はプレーすること自体に満足感を感じるのみで、プレー自体は余裕がなくおぼつかないものになっ

ておりますが、年甲斐もなく、今後も精進を重ねもう少しは昔の自分に戻れたらと思ったりもしています。

来年以降も、全国のシニアの方々と楽しい時間を共有できるこのような素晴らしいイベントに、是非とも参加できたらと思っております。

STARS OF STARS 楠 清志さん

期待？の新人、手首骨折

4月に還暦を迎え、期待の新人？として、初めてシニアバスケットボール交歓大会に参加させていただきました。各地のチームと交流することができ、大変楽しい時間を過ごすことができました。交歓大会開催のため、ご尽力下さった関係者の方々に心から感謝いたします。

学生の頃、バスケは、体力的に30歳代前半まで、その後は、マラソン、テニス、ゴルフと計画していました。しかし、十数年前に、バスケのシニアリーグやシニアの全国大会があることを知り、本格的にバスケの練習を再開しました。近年は、O v e r 6 0の大会を目標に練習を続け、漸く、今年、デビューすることができました。

交歓大会では、先輩の方々の素晴らしいプレー、珍プレーを拝見し、まだまだ、私が若輩者であると感じました。特に、O v e r 7 0の試合を見て、自分も70歳以上でバスケを続けられるように、頑張ろうと思いました。私がO v e r 7 0に参加する頃には、O v e r 8 0のカテゴリーができていることを期待します。

O v e r 6 0の試合では、少し、気になったことがありました。若者であれば、転ばないであろうと思われる場面で、転ぶ選手が多かったことです。特に、転んだ選手の巻き添えになり、同時に複数の選手が転んだり、ぎこちない転び方をしたりすることが多かったように感じました。バスケは、コンタクトスポーツなので、転倒防止、怪我防止は、個々人が足腰を鍛えるしかないのかもしれませんが、バスケを生涯スポーツとして発展させて行くために、何か工夫ができると良いと思いました。

なお、私は、華麗な？バックシュートの後、転倒し（ファール無し、自損）、右手首を骨折してしまいました。自分の歳、身体能力を考えたプレーを心がけるべきであったと反省しております。お医者様（バスケ経験者）からは、バスケ再開は、半年後と言われました。現在、シュート練習をできないので、ひたすら、下半身の筋トレに励んでおります。

今回、オジン世代のバスケットボールの聖地、代々木第二体育館が改修中で、使用できなかったことは、少し残念でした。改修が終わったら、再び、代々木第二体育館で、シニアバスケットボール交歓大会 in Y0Y0GIを行えると嬉しいです。今後、参加チームが増え、より多くのチームと交流できることを期待します。そして、この大会を通じて、バスケットボールを生涯スポーツとして発展させていくために寄与できると幸いです。この大会に、Bリーガーが参加するまで頑張り、Bリーガーと対決したいと思います。その頃、私は、O v e r 9 0、先輩方は、O v e r 1 0 0でしょうか。

駄馬 阿部 哲朗さん

この大会に出場して2年目になります。昨年は懐かしい代々木第二体育館で40数年ぶりの



バスケットボールでした。と言っても代々木第二体育館で毎週のように試合をしたのではなく、年1回の関東大学リーグ戦の入れ替え戦で3部A→4部A→4部Bへと毎年陥落し続けていた懐かしい体育館でした。今年は代々木第二体育館がリニューアル工事のため使えず、国立オリンピック青少年スポーツセンターでの試合です。ここも東京オリンピックの選手村の一郭のようです。来年はちょっと開催時期をずらせば、代々木第二体育館での開催も可能かもしれないそうです。期待しましょう。

さて、今回は駄馬チームの最高齢の山本治さん84歳が、風邪のため急に来られなくなってしまい、とても残念です。試合の方は毎度お馴染みの千葉 Coki-Coki さんと横浜ビー・シーガルズさんとの2試合で、楽しくプレーができました。1勝1敗でちょうど良く本日も楽しい一杯が待っています。また、来年以降も出場したいと思っていますので、よろしくお願いします。

横浜ビー・シーガルズ 安力川 泰洋さん

この10月に65歳になる私は、20代後半から香港で仕事をしている。香港ではJ'sという日本人のバスケットボールチームの最古参（自称）として、毎週土曜日にプレーをしているが、海外駐在員の日本人が多い土地柄チームは30代が中心の若い人が多く、気持ちと経験は負けないつもりでも体力の差は年々歴然、忸怩たる思いを抱きながらコートに立っていることが増えてきた。

そんな香港住まいの私がなぜ、横浜ビー・シーガルズでバスケットをすることになったかと経緯を説明したい。上記の胸の内を大学の先輩に相談した所、60歳以上のバスケットボールがありリーグ戦も開催されていると教えてくれた。それなら！と、早速、以前共に香港でプレーしていた揖場さんに連絡を取り横浜ビー・シーガルズを紹介してもらった次第。

彼は私が入部を希望しながらも香港在住のため難色を示すかと思ったが「横浜ビー・シーガルズではバスケットをしたいという申し入れを断ることはないのではないか」と彼らしい粋で心憎いコメントと共にキャプテンの川戸さんを紹介してくれたことによります。

誰しも毎年1歳ずつ年齢を重ね体力は落ちてゆくはずなのに、多くのメンバーが「体力ついたのではないか？」というプレーが多く見られた。それは白熱した試合の随所に見られ、改めてバスケ



ットをする目標と負けられないという気持ちに火がついた。

大人のバスケットには試合後のお楽しみがなくでは物足りない。今回、普通では通常は入れない「住友代々木倶楽部」での懇親会では申し分ないお料理に舌鼓を打ちながらお酒もいただき、心地よい酔いを味わった。これを知るともうもう足を洗うことはできない。

足腰の痛みを隠しながらバスケット談義に花を咲かせる。これほど楽しいお酒は中々ない。日本に住んでいれば年何度か開催される試合に皆勤賞を狙いに行くところだが、なにぶん離れているので叶わない部分もあるが、今後も継続参加をし「毎年一歳」どころではなく「何年分も」体力がついたのではないかとと言われる側に立ちたいと思っている。

埼玉・GS ブルーウインズ 俵木 登さん



今日は年に1度、待ちに待ったシニアバスケットボール交歓大会 in YOYOGI が開催される日だ。例年だとバスケットボールのメッカ代々木第二体育館で行われるが、今年は工事中のため使用できないとの事なので国立オリンピック記念青少年総合センターで行われる。この会場は約30年前、全国青年団大会で埼玉県代表としてバスケットボール競技に参加した時、宿泊した場所でもある。初夏の朝日がまぶしい道を駅へと歩き6時の電車に乗り込む。一路、会場最寄り駅の小田急線参宮橋駅へと向う。約2時間半かけて到着後、集合時間より早く着いたのでセンター内の食堂で朝食を取り試合会場の体育館へ。

G's ブルーウインズの一試合目は兵庫県のシルバーキッズだ。今日はディフェンスで頑張ろうと1Qからコートに入ったが、いきなりフリーでパスをもらいそのままシュート最初の得点が私とはラッキーなことで、その後チームも調子が出たのか前半で10点程リードしてハーフタイム。しかし、後半3Qからシルバーキッズの猛攻が始まり徐々に得点差が縮まりハラハラしたが33×31で辛勝。平均年齢は我がチームより高いはずなのに、シルバーキッズの最後まで諦めない戦いは頭が下がる思いだ。練習をよくしているチームだと思った。

二試合目は、東京都のSTARS OF STARSだ。メンバーは実業団チームに所属していた方々が多くいるチームだと聞いている。1Qから攻められ、あっという間に10点程先行されてしまった。試合運びはさすがで、見習う所が多く、なにしろシュートが正確だった。どんな練習をしているのか一度参加してみたいと思った。後半4Qあたりから疲れが出てきたのか、我がチームがじりじりと追い上げたが21×28で惜敗でした。いまさらだが、あと5分あれば接戦になっていたかも・・・と思った。私がバスケットを始

めた中学生の頃シュートのお手本にしたのが、STARS OF STARS のメンバーで、当時実業団で活躍されオリンピックにも出場された諸山 文彦氏のシュートフォームだ。諸山氏の0度からのシュートは、すごく格好よかったことをおぼえている。テレビで試合中継を見ながらフォームを脳裏に焼き付け中学当時何度も何度も真似をしたことがなつかしく思った。試合終了後、諸山氏に挨拶をしようと探してみたが会場に来ていなかったのか、それとも帰られたのか残念ながら会えなかった。その後、案の定我がチームは新宿の思い出横丁で慰労会兼反省会を行い、ほろ酔い気分で帰路に着いたのでした。

この大会へ参加させて頂けたのは、我がチーム G's ブルーウインズの代表である鷺澤 秀夫氏と一緒に出ないかと数年前に誘われて、トロッターズやせんべーずゴールデンの増井 英明氏のチームから出させてもらってからです。そしてバスケットボーラー憧れの代々木第二体育館での初試合は、まともにプレー出来た覚えが無いほど気分が高揚していたのか、よく増井氏から良い意味の激を頂いた覚えがありました。増井氏は膝の調子が芳しくないと聞いていますが、また一緒にプレーしたいと思っています。ぜひ復活を願っています。

私事ですが、還暦を過ぎても好きなバスケットが出来ることに感謝しながら、また来年皆さんと代々木第二体育館で会えることを願っています。

最後に、振興会の役員の方々やその関係者の方々に感謝申し上げ、この会の活動が益々発展していきます様、陰ながら応援して参りたいと思います。乱文にて失礼いたしました。

セブンブラザーズ 福島 豊さん

60歳になり、今回ようやくチームの仲間入りができました。とても光栄に思います。



今年の大会も大勢のプレーヤーが参加しましたが、体育館いっぱいには60歳以上の爺さんが、死に物狂いでバスケットボールをやっている姿は、周りから見ると異様に映るかもしれません。現に、まだ50代半ばでレフェリーに呼ばれたときは、ただ圧倒されてしまいました。しかし、今ではその仲間入りし、こちらの立場でコートに入ると、とても心地よく、何やら清々しい気持ちになります。バスケットが大好きなオジさんが集まって、た

だガムシャラにバスケットをする。素晴らしいことではありませんか。

今回も何ゲームかレフェリーをさせていただきましたが、レフェリーからはプレーヤーの顔がよく見えます。その顔はとても真剣であり、同時に皆フレンドリーです。ナイスプレーのドヤ顔、失敗したときの悔しいながらも頑張った満足顔、ファウルをしたときの申し訳なさそうな顔、その笛は違うと訴える顔、いずれも街中でオジさんにはなかなか見れない顔です。みな愛すべき仲間の姿です。

60歳というと、多くの人は生活の変わり目や体調の変わり目を迎えます。この先どう楽しく生きていこうかと、自分の現状と相談しながらみな思案していることでしょう。そのためには、人知れず様々な努力が必要なのはです。60歳を越えてコートに立つということは、そんなことなんだ

と思います。

また次の機会に、是非元気に集まりましょう。そして真剣にバスケットを楽しみましょう。大会運営に尽力されている振興会の皆さん、このような機会を設けていただき、ありがとうございます。

最後に、まだ新人の身で一部生意気なことを申し上げたことをお許し下さい。これから長い付き合いをさせていただきたいと思いますので、どうかよろしくお願いします。

岩手マスターズ 油井 康さん

第11回シニアバスケットボール交歓大会 in YOYOGI に参加して

シニア交歓大会 in YOYOGI に名称が変更になって今回は第1回、今年は故障者が出て、いつもの



大会のように選手起用に頭を悩ますほど選手は集まらなかったが、チームから離れSOSチームのポイントゲッターとして活躍していた三浦真造が戻ることになって、厚み、高さを補うことができた。

初日、第1試合は対シルバーキッズ。2月の横浜カップで対戦し、後半8点程リードを許していたが、吉

田、佐野、鈴木の脚力で前線プレスディフェンスが機能して逆転し、そのまま押し切って勝利している。今回はこちらが、珍しく出だし好調で3ピリまでリード、前回、インサイドの得点で痛めつけられた谷野選手に対するインサイドのディフェンスを重視したが、裏をかかれてアウトサイドからのシュート、ファーストブレイクなどで、終了40秒前に逆転されてしまった。その後、我がチームの唯一の3点シューター渡辺を起用して逆転を狙ったが、機能せず、ようやくこぼれ球を拾った伊藤が同点シュートを決めてタイムアップとなった。夜の交流会で、谷野君が愛媛の世界大会の日本選手の得点1位、それも殆どがアウトサイドからの得点だったと聞いたが、後の祭りだ。それでも心に残る楽しい試合だった。

第2試合は、SOSである。メンバー表のトップに名を連ねている、小澤正博選手は、私と同年である、というより、昭和10年8月21日の同じ日生まれであることを知ったのは、前回の大会である。それから後、振興会総会、横浜大会等で親交を深めている。

SOSは、諸山氏を筆頭にスター選手が名を連ね、対戦したいチームの希望ナンバー1である。直前にSOSを離脱した三浦真造が明日は出場しないことを明言したので、それなりに作戦を立てメンバーを組み、スタートしたところ、いつも立ち上がりが悪いはずのチームが、次々と得点を重ね、10点近くのリードをして2ピリ終了した。

3ピリからは、練習不足からくる連携プレーの不味さ、体力不足がもろに出て、じわじわと得点され、小澤選手とマッチアップして対戦する余裕もなく、押し切られた。よせ集め、急造チームのも

ろさをさらけ出した今回の大会だった。

急遽、会場をスポーツセンターに変更したにもかかわらず、楽しい大会を運営していただいた、振興会スタッフに感謝いたします。お疲れさまでした。

人間テンドース 渡辺信子さん

代々木の季節がやって来た～

毎年開催されているこの大会を楽しみにしていました。しかし、今年は国立代々木青少年センター体育館での開催・・・。

毎年開催している代々木第二体育館は 2020 年の東京オリンピックに向けて改修工事を行って使用できないとのこと。開催が危ないのでは・・・とも噂で聞きました。代々木第二体育館でなかったのは少し残念ではありましたが、例年通り開催してくださった主催者には感謝です。



毎年いつも参加しているチームの方々にお会いできることをとても楽しみにしています。特に遠方からいつも参加している 70 歳代の選手・・・もう 80 歳目前の方々にお会いできる事はすごく楽しみであり刺激を受けます。今後 10 年 15 年、私も頑張らなければ・・・と新たな気持ちを持たせてもらえます。今年はお一人の方にはお会いできませんでしたが、諸先輩方の元気にプレーしている姿をおみかけし再びエネルギーをいただきました。本当に開催してくださりありがとうございました。

例年はコート 1 面で試合を行っていましたが、今年は 2 面。

2 面あったことにより、試合間など時間的に余裕があり、良かったように思います。また、例年最終試合はおせおせの状態であわただしく感じてましたが、今年は他チームの方とも話ができる時間を持つことができました。

人間テンドースとしては 1 勝 1 敗。全員がプレーし楽しみました。

また、今年はオーバー 60 歳の試合が新しく催され、楽しく参加させていただきました。

「生涯スポーツ」「生涯バスケット」を掲げて、とてもよかったと思います。

チーム編成もいろいろなチームの方が入り乱れ、今までかわりを持ったことのない方と一緒にプレーし、さらに交流が深まりました。しかし、最終試合だったので、自分のチームの試合が終わったので・・・と帰ってしまった方が多々いたのは残念でした。次回の混合チームの試合は最終ではなく真ん中あたりの時間に設定していただければ有難いと思います。

50 歳以上の女子、60 歳以上の男子・・・

とにかくパワフルです。年々パワフルさが増しているように感じます。

生涯スポーツとしてのバスケットボールの愛好者が増えることを願い、また、楽しむ場を設けてくださった主催者に感謝し、来年また参加できることを楽しみに帰宅しました。ありがとうございました。

千葉 渋谷 美由紀さん



今年で11回を迎えたこの大会、千葉のメンバーの参加状況を振り返ってみたいと思います。第1回は、自分の所属チーム『船橋ペパーミント』での参加。平日仕事を持っているメンバーが多くこの回だけの単独参加となりました。

次はメンバーが集まらず、シルバーキッズレディースのご好意で第2回は2名、第3回は5名を

一緒に出場させていただきました。

何とか千葉でと声を掛け、第4回、第5回は、流山と船橋の2チームの合体で『千葉 NFG (Nagareyama & Funabashi Golden)』として参加しました。

第6回目からは、千葉県内の50代に声かけして、8チームの中から有志が集まりました。第7回は6チーム、第8回6チーム、第9回7チーム、第10回6チームから過去最高の19名のエントリー。そして、この大会で横浜の川戸さんを介して安力川さんとお会いして、代々木のメンバーを中心に香港遠征に。そして今年4月、松江で開かれたFIMBA ワールドリーグ松江2018に出場してきました。

そして、今回も8チームからバスケットボールが集ったのです。こうして長くバスケットを続けること、そして代々木の大会に皆勤で参加できているのも、健康であり、理解してくれる家族や周囲に感謝しながら、まだまだ広がっていく人との繋がりに期待して、また来年も元気に参加できるよう日々精進（できる範囲ですが）していきます。



「AKATSUKI FIVE」男子日本代表強化で躍進

FIBA ワールドカップ 2019 予選第2ラウンドへ進出

[編集部]

FIBA バスケットボールワールドカップ 2019、これまでグループBで全敗の日本は、インサイド陣の強化に、日本へ帰化した#22 ファジーカス選手に加え、アメリカ留学中でNBAクラスの安定した得点力を有する#23 八村選手を加えてリバウンドと得点力の増強が図られた。

その結果、一次予選（第1ラウンド）の第3ウィンドウで、6月29日にオーストラリアに79-78、また7月2日にチャイニーズ・タイペイに108-68と2勝して3位に上がり、二次予選（第2ラウンド）に進出した。

＜主なスタッフ＞

役 職	氏 名	所 属
ヘッドコーチ	フリオ・ラマス	公益財団法人日本バスケットボール協会
アシスタントコーチ	エルマン・マンドーレ	公益財団法人日本バスケットボール協会
アシスタントコーチ	佐古 賢一	公益財団法人日本バスケットボール協会
マネージャー	西村 拓也	公益財団法人日本バスケットボール協会

＜「AKATSUKI FIVE」選手＞

* 年齢所属は2018年7月1日現在

NO	選手名	P	身長	体重	年齢	所 属
			c m	kg	歳	
2	富樫 勇樹	P G	167	65	24	千葉ジェッツ
3	辻 直人	S G	185	82	28	川崎ブレイブサンダース
6	比江島 慎	P G	190	88	27	シーホース三河
7	篠山 竜青	P G	178	78	29	川崎ブレイブサンダース
8	太田 敦也	C	206	112	34	三遠ネオフェニックス
11	*宇都 直輝 (C T)	P G	190	77	26	富山グラウジーズ
15	竹内 譲次	P F	207	98	33	アルバルク東京
18	馬場 雄大	S F	198	90	22	アルバルク東京
22	ファジーカス ニック	C	210	111	33	川崎ブレイブサンダース
23	八村 塁	S F	203	102	20	ゴンザガ大学
24	田中 大貴	S G	192	93	26	アルバルク東京
43	*永吉 佑也 (A U)	P F	198	115	26	京都ハンナリーズ
51	古川 孝敏	S G	190	92	30	琉球ゴールデンキングス
	平 均		193.4	92.5	27.5	

*エントリー (A U : オーストラリア戦) (C T : チャイニーズ・タイペイ戦)

PG ポイントガード、SG シューティングガード、SF スモールフォワード、PF パワーフォワード、C センター

国際強化試合 2018 韓国代表戦

6月15日 東京大会

	1P	2P	3P	4P	計
日本	27	22	18	21	88
韓国	20	18	24	18	80

#22 ファジーカスと#23 八村が参加した最初のゲームである。個人得点では、#22 ファジーカスが28点、#23 八村が17点、#15 竹内が10点で、2人の参加により得点能力が確実に上がっている。従来の欠点であるリバウンド力も向上し、韓国と互角に戦えるほどに追いついてきている。#22 ファジーカスと#23 八村の参加効果は非常に大きいと言える。

6月17日 宮城大会

	1P	2P	3P	4P	計
日本	23	21	23	20	87
韓国	20	23	26	30	99

日本は、宮城大会でも80点を超える得点能力を示し、ワールドカップ予選の通過に向けて、大きな期待を持たせてくれる。個人得点では、長時間コートにいた、#6 比江島が18点、#23 八村が14点、#22 ファジーカスが12点であった。

第4ピリオドの大きな失点は、#22 ファジーカスが2分半ほどの出場でリバウンドに参加できず、オンザコートでもマンツーマンディフェンスで相手選手にセンターラインまで引き出されて、日本のリバウンドが手薄となったためと思われる。韓国は、終了時間が迫ったことにより連続シュートで一気に10点を上乗せ、リバウンドの有利さを考えリングに向かって気楽にシュートしたためか、シュート確率もよかった。

第3ウィンドウ：日本の成績

[ホームゲーム]

6月29日

	1P	2P	3P	4P	計
日本	23	19	22	15	79
オーストラリア	16	17	25	20	78

日本は、オーストラリアにゾーンディフェンスで臨む。この結果、インサイドの#22 ファジーカスが韓国戦最後の場面で鮮明になったリバウンドで大いに活躍する。

日本は、アジアのトップチームに、途中、10点以上をリードしながら第3ピリオドで一時1点のビハインドとはなったが、第4ピリオド、残り2分半の73-72以降、相手の猛攻をしのぎ、一度もリードされることなく、1点差を守り切った。これは得点能力が向上した上、ディフェンスも安定した証である。

ちなみに、個人の得点は、#22 ファジーカスが25点、#23 八村が24点、#18 馬場が8点であった。

[アウェーゲーム]

7月 2日

	1P	2P	3P	4P	計
チャイニーズ・タイペイ	15	13	29	11	68
日本	27	20	30	31	108

戦力が充実し、アジアのトップを争えるチームになった日本は、チャイニーズ・タイペイを相手にせず、完勝してグループBを3位で通過し、二次予選に進むことになった。

二次予選でグループFを形成するグループBとグループDのチーム成績

グループB

第3 ウィンドウまでの成績

上段ホーム・下段アウェー

順位	チーム	オーストラリア	フィリピン	日本	チャイニーズ・タイペイ	勝	負
1	オーストラリア		○ 84-68 ○ 89-53	○ 82-58 ● 78-79	○ 88-68 ○ 104-66	5	1
2	フィリピン	● 53-89 ● 68-84		○ 89-84 ○ 77-71	○ 90-83 ○ 93-71	4	2
3	日本	○ 79-78 ● 58-82	● 71-77 ● 84-89		● 69-70 ○ 108-68	2	4
4	チャイニーズ・タイペイ	● 66-104 ● 68-88	● 71-93 ● 83-90	● 68-108 ○ 70-69		1	5

グループD

第3 ウィンドウまでの成績

上段ホーム・下段アウェー

順位	チーム	イラン	カザフスタン	カタール	イラク	勝	負
1	イラン		○ 88-56 ○ 75-54	○ 65-39 ○ 77-75	○ 83-53 ● 66-74	5	1
2	カザフスタン	● 54-75 ● 56-88		○ 96-63 ○ 82-70	○ 82-76 ● 50-64	3	3
3	カタール	● 75-77 ● 39-65	● 70-82 ● 63-96		○ 84-79 ○ 77-66	2	4
4	イラク	○ 74-66 ● 53-83	○ 64-50 ● 76-82	● 66-77 ● 79-84		2	4

次の、ワールドカップ二次予選では、八村選手の参加が確定していないが、ファジーカス選手によるリバウンドと得点の伸びが期待できる。

そこに、従来から活躍する比江島選手、馬場選手、富樫選手は勿論、竹内選手、辻選手を含むすべての選手に新参加の二人に触発された好プレーが目立つようになった。

日本は世界で闘えるチームに変身できるか。

FIBA ワールドカップ 2019 二次予選

FIBA バスケットボールワールドカップ 2019 の一次予選（第 1 ラウンド）第 3 ウィンドウが 7 月 2 日に終わり、日本は、下記の成績で二次予選（第 2 ラウンド）に進出する。

二次予選は一次予選に続く第 4～第 6 ウィンドウがあり、グループ B 上位 3 チームはグループ D 上位 3 チームと下記のようにグループ F を形成して対戦する。

グループ F は、一次予選の成績をそのまま引き継ぎ、二次予選で未対戦チーム同士が対戦する。

グループ F		第 3 ウィンドウまでの成績						上段ホーム・下段アウェー	
順位	チーム	A U S	P H I	J P N	I R I	K A Z	Q A T	勝	負
B1	オーストラリア		○ 84-68 ○ 89-53	○ 82-58 ● 78-79				3	1
B2	フィリピン	● 53-89 ● 68-84		○ 89-84 ○ 77-71				2	2
B3	日本	○ 79-78 ● 58-82	● 71-77 ● 84-89					1	3
D1	イラン					○ 88-56 ○ 75-54	○ 65-39 ○ 77-75	4	0
D2	カザフスタン				● 54-75 ● 56-88		○ 96-63 ○ 82-70	2	2
D3	カタール				● 75-77 ● 39-65	● 70-82 ● 63-96		0	4

日本（世界ランク 48 位）の日程

第 4 ウィンドウ

[アウェー] 2018 年 9 月 13 日(木) vs カザフスタン（世界ランク 68 位）

[ホーム] 2018 年 9 月 17 日(月) vs イラン（世界ランク 24 位）

第 5 ウィンドウ

[ホーム] 2018 年 11 月 30 日(金) vs カタール（世界ランク 60 位）

[ホーム] 2018 年 12 月 3 日(月) vs カザフスタン

第 6 ウィンドウ

[アウェー] 2019 年 2 月 21 日(木) vs イラン

[アウェー] 2019 年 2 月 24 日(日) vs カタール

ワールドカップ日程

ワールドカップは、グループ E（グループ A・C の各上位 3 チームで形成）・F それぞれの上位 3 チームとベスト 4 位の 7 チームに開催地チーム中国を加えた 8 チームが出場、2019 年 8 月 31 日から開始され、9 月 15 日に終わる。

「AKATSUKI FIVE」女子日本代表WCへ好発進

国際強化試合結果とワールドカップ日程

[編集部]

日本協会は、2018年9月22日から30日までスペインで開催される「FIBA 女子バスケットボールワールドカップ 2018」に向けて、「国際強化試合 2018 三井不動産カップ」を開催した。

「AKATSUKI FIVE」女子日本代表は、6月にチャイニーズ・タイペイと対戦して96-66で圧勝し、8月5日と7日に平均身長187cmのカナダ代表チーム（世界ランク5位）を相手に新潟と群馬で対戦して連勝し、スペイン・ワールドカップ本戦が期待できる。

「AKATSUKI FIVE」女子日本代表メンバー

8月3日、ヘッドコーチをトム・ホーバスとするスタッフとともに日本代表候補選手の下記14名が発表された。

渡嘉敷来夢選手は足の負傷で治療・リハビリのため、今大会を欠場している。

< 「AKATSUKI FIVE」選手 >

* 年齢・所属は2018年8月3日現在

NO	選手名	P	身長	体重	年齢	所 属
			c m	kg	歳	
0	長岡 萌映子	S F	182	75	24	トヨタ自動車アンテロープス
1	藤岡 麻菜美	P G	170	60	24	J X - E N E O S サンフラワーズ
7	水島 沙紀	S G	171	59	27	トヨタ自動車アンテロープス
8	高田 真希	P F	183	76	28	デンソーアイリス
13	町田 瑠唯	P G	162	57	25	富士通レッドウェーブ
15	本橋 菜子	P G	164	55	24	東京羽田ヴィッキーズ
17	三好 南穂	P G	167	60	24	トヨタ自動車アンテロープス
24	藤高 三佳	S G	176	68	29	トヨタ自動車アンテロープス
30	馬瓜 エブリン	S F	180	79	23	トヨタ自動車アンテロープス
39	赤穂 さくら	C	183	77	22	デンソーアイリス
41	根本 葉瑠乃	S G	175	67	23	三菱電機コアラーズ
52	宮澤 夕貴	S F	182	70	25	J X - E N E O S サンフラワーズ
88	赤穂 ひまわり	S G	184	71	19	デンソーアイリス
99	オコエ 桃仁花	S F	181	72	19	デンソーアイリス
	平 均		175.7	67.6	24	

PG ポイントガード、SG シューティングガード、SF スモールフォワード、PF パワーフォワード、C センター

女子日本代表「国際強化試合 2018 三井不動産カップ」 カナダ戦

新潟大会 8月5日（日） アオーレ長岡

	1P	2P	3P	4P	計
日本	24	10	21	18	73
カナダ	15	14	17	24	70

日本は、試合開始から積極的にゴールを狙い、残り5分までに3本の3ポイントシュートを含む17点を挙げる一方、激しいゾーンディフェンスでカナダを抑え、11点をリードする。第2ピリオドではカナダ長身選手の動きに抑えられ、外角もゴール下でもシュートが決められず、前半を5点のリードで終わった。

第3ピリオド、日本は、試合開始当初の激しさやスピードが見られず、相手長身選手にゴール下を抑えられ5分経過時点で36-44と8点のビハインドとなる。この後、#15 本橋の積極的なドライブインによる連続シュートが決まり、残り3分を切って46-46の同点とする。更に、#8 高田選手、#30 馬瓜選手のシュートと#41 根本のダメ押し3ポイントシュートにより、日本は第3ピリオド終了で9点をリードした。

第4ピリオドでは最初の3分半で、カナダは190cm #9選手のみが得点する一方、日本は好調に得点を重ねて15点をリードするが、その後の5分間で67-64の3点差にまで詰められる。しかし、日本は、終盤の残り1分半の67-64から#41 根本が連続3ポイントシュート決め、その間の追い上げを凌いで辛うじて初戦を勝利する。

群馬大会 8月7日（火） 高崎アリーナ

	1P	2P	3P	4P	計
日本	25	21	17	25	88
カナダ	11	12	19	8	50

カナダは中国を経ての遠征のためか疲れが見え、プレーにスピードが欠けていた。また、ポイントゲッターの198cm #22の選手がひざの故障で欠場していたためか、ゴール下のプレーが少なかった。

前半、日本は、ゾーンからのマッチアップディフェンスでカナダのシュートを抑え込む一方、積極的にシュートしてこれを決め、第1ピリオドから一方的なゲームとなる。

第2ピリオドに入っても状況は変わらず、#15 本橋や#88 赤穂らがのびのびと得点を重ねるが、中盤お互いに無得点の時間が3分ほど続く。その後カナダにも得点を許すが#0 長岡、#52 宮澤、#41 根本らの連続得点で再びリードを広げ、46-23のダブルスコアで前半を終わる。

後半、第3ピリオドはお互いに攻め合いの時間が続きほぼ互角の戦いとなったが、第4ピリオドに入ってからカナダが6分間で2得点の間、日本は#41 根本と#17 三好が好プレーで得点を続け、残り4分余りに80-44と大量リードする。

その後も、替わって入った#30 馬瓜がフリースローと3ポイントシュートを決めてダメ押しとなり、結局大差を持って世界ランキング5位のカナダを圧倒した。

招待ゲームとはいえ世界ランク格上で、高身長のカナダに果敢に挑んで走り勝った実績はワールドカップへ向けて大きな自信となったであろう。

このうえは更なる強化を重ね、ワールドカップ本線では是が非でもメダルを獲得して帰国することを期待したい。

FIBA 女子ワールドカップ 2018 日程

FIBA 女子バスケットボールワールドカップ 2018 は9月22日から30日までスペインで開催される。その出場チームは、オリンピック優勝、開催地、および各地区代表の16チームである。出場チームは下記の4グループに分けられて予選リーグ各チーム3ゲームを行い、上位3チームが決勝トーナメントに進出する。

日本は、リオ・オリンピックでの活躍によって、世界ランキングが13位に上がり、グループCで戦うが、強豪スペインとの対戦もあり油断は禁物である。

決勝トーナメント進出はもとより、メダルを目指して戦ってもらえるよう、日本全国で盛大に応援したいものである。

出場チームのグループ分け

下段は世界ランク

グループA	韓国	フランス	ギリシャ	カナダ
	16位	3位	20位	5位

グループB	オーストラリア	ナイジェリア	トルコ	アルゼンチン
	4位	34位	7位	15位

グループC	日本	スペイン	プエルトリコ	ベルギー
	13位	2位	22位	28位

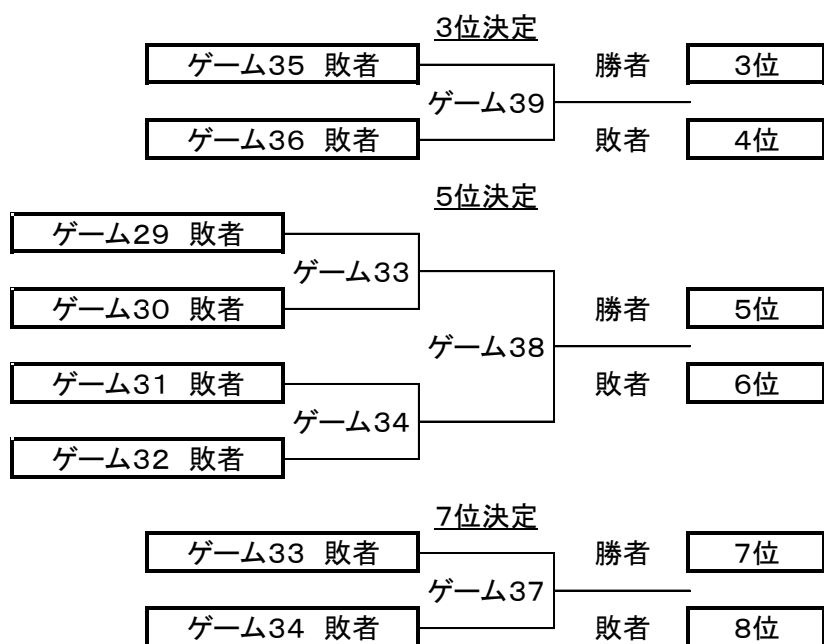
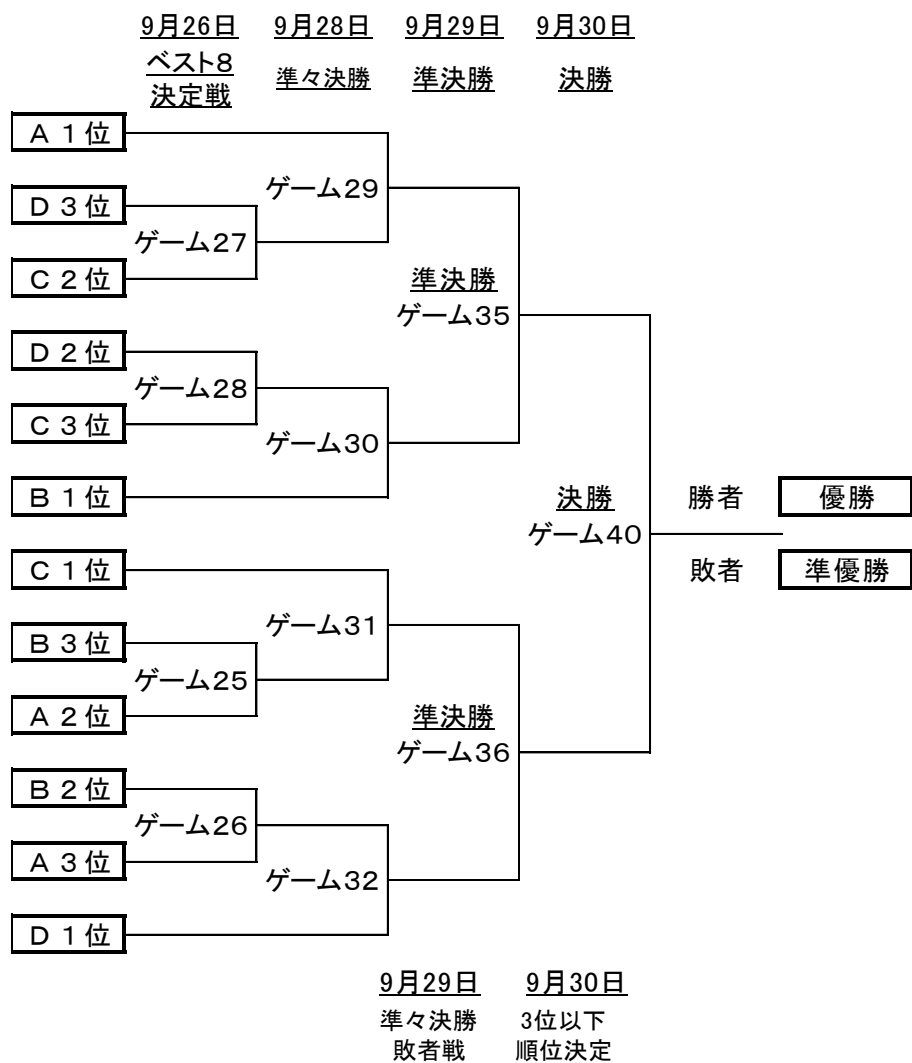
グループD	ラトビア	中国	USA	セネガル
	26位	10位	1位	17位

予選リーグ クーループC・Dのみ

(日付は現地日)

開催日	対戦相手		開催都市
9月22日(土)	ラトビア	VS 中国	サンタクルスデテネリフェ
	USA	VS セネガル	サンタクルスデテネリフェ
	日本	VS スペイン	サンクリストバルデララグーナ
	プエルトリコ	VS ベルギー	サンタクルスデテネリフェ
9月23日(日)	ベルギー	VS 日本	サンタクルスデテネリフェ
	セネガル	VS ラトビア	サンクリストバルデララグーナ
	中国	VS USA	サンタクルスデテネリフェ
	スペイン	VS プエルトリコ	サンクリストバルデララグーナ
9月25日(火)	日本	VS プエルトリコ	サンタクルスデテネリフェ
	セネガル	VS 中国	サンクリストバルデララグーナ
	ラトビア	VS USA	サンクリストバルデララグーナ
	ベルギー	VS スペイン	サンクリストバルデララグーナ

決勝トーナメント



京都の中学生初心者向けクリニック

[総務部・普及部]

本年5月20日（日）に京都市で地元中体連主催、振興会応援による中学生初心者向けクリニックが、女子4校19名、男子9校58名、計77名の参加者を得て開催された。当会理事の結城講師により約2時間半、「シュートを上手くなろう」とのテーマのもとで実施した。本年も地元の文教大学の男子選手1名がデモンストレーターとして参加、お手伝い頂いた。謝意を表したい。

< 結城講師によるクリニックの概要 >

総論・理論編

バスケットボールとは、狭い場所で10人がひしめきあって、状況がめまぐるしく変わる。その状況が変わる中、瞬時に状況を把握し、自分は何をしたらよいか判断し、瞬時に行動に移すスポーツである。

① 見る

視線を常にリングの高さに保つ（コート全体の状況が把握できる）

これを習慣付けること

② 瞬時に動く

常にバスケットボールスタンス（足は肩幅より少し広く開き、つま先と膝は進行方向に向け、視線は目の高さより上、重心は拇指球で膝を少し曲げる、体は上下動させない）をキープし、瞬時に8つの方向に動けるように



結城講師による座学

実践編ドリル

○ダッシュ&ストップ



ダッシュ&ストップ

○ボールハンドリング

ポイント：ボールは指先でコントロール



ボールハンドリング

○ドリブル

前後、左右、高低

ポイント：

- ・膝より低いかつ強いドリブルの練習
特に高身長プレイヤーほど必要
- ・高いドリブルと低いドリブルの組み合わせ
では膝でリズムを作ることを意識する
- ・ボールをこねないこと

○1対1のドリブルドリル

(3つの切り替えし方法の練習)

ポイント：足の動きは直線的に



ドリブル



1対1のドリブルドリル



シュート

○シュート

ポイント：

- ・ドリブルの延長がシュートであるとのイメージを持つ
- ・バスケットボールスタンスのまま上に飛ぶこと。勢いをつけるために沈み込まない
- ・常にリングに正対、肩の線はフロアと平行に保つこと。指先でコントロールし、ボールを指先で追いかけるイメージ
- ・手首はあまり使わない(手首を使うと方向性は良いが、距離感のアジャストが難しい)
- ・ボールを放り出す角度(アーチ)はリングを見た時にボールが視界から消える感じ
- ・ドリルは近いところから同じ距離で始めて徐々に遠くに
そして、指先が強くなれば、バリエーションも可能
- ・ボールは総て指先でコントロール
因みにパス・ドリブル・シュートは総て指先でコントロール
従って、シュートが上手くなる為にも指先を強化する事がポイント

<結びに>

京都市での開催は5回目であるが、今回は参加校が11校、参加生徒数が男女合わせて77名と過去最高であった。今回も当会会員で京都市在住の藤野英雄氏、京都府中体連専門部委員長で龍谷大学附属平安中学校教諭の岩崎広行先生(先生は今年から日本協会のU15部会の部会長に就任された。今後のご活躍を期待申し上げたい)にはたいへんにお世話になった。又、当日は7名の先生方にも生徒さんの引率でご協力頂いた。誌面を借りて厚くお礼申し上げたい。

(文責 蒲田 尚史)

先人の軌跡 近藤茂吉

[普及部]

日本体育協会の創立に参画し、バスケットボール競技組織の最初の委員長を務められた近藤茂吉（こんどうしげきち）氏を紹介する。（以下、敬称略）

近藤茂吉：1883 年（明治 16 年）1 月 7 日生～1969 年（昭和 44 年）、千葉県海上郡飯岡町に生まれる。



近藤 茂吉 氏

提供 公益社団法人日本山岳会

大正大学卒業後、明治 37 年から 39 年まで、ウィスキーの研究のため、英国グラスゴー大学（スコットランド）に留学する。明治 40 年 10 月東京に近藤商店を設立して直輸入業を始める。1912 年（明治 45 年）立山・針ノ木峠・上高地より穂高・槍を縦走、1913 年（大正 2 年）長次郎谷から剣岳に登頂し、1914 年（大正 3 年）スイスのグロースシュレックホルンに登頂するという山岳家であり、1950 年（昭和 25 年）日本山岳会名誉会員となっている。

山岳家としての実績を積む最中、1911 年（明治 44 年）の大日本体育協会（会長・嘉納治五郎）創立に参画し、1924 年（大正 13 年）まで常務理事を務める。

（スポーツ大百科・日本体育協会監修、大橋季彦編集資料、公益社団法人日本山岳会会報「山岳 64 号」より）

1917 年（大正 6 年）5 月、日本初の国際総合競技大会である第 3 回極東選手権大会が東京・芝浦で開催された。日本の初参加になった蹴球、バスケットボール、バレーボールなどの競技は、この大会が転機となって国内での普及が促進されたという経緯もある。近藤は、この大会を契機に大日本体育協会のバスケットボール・バレーボール委員長となった。バスケットボール競技の代表は、佐藤金一を主将とする京都 YMCA チームであり、近藤が品川駅までチームを迎えに行き対応をしている（京都青年 33 号 参照）。

当時のバスケットボール競技人口は、各地の YMCA チームが主体で、全国でも 100 人程度であった。日本はフィリピンチーム・中国チームに大差で惨敗した。実力が弱いこともあり、「このような「アーメン」競技（外国発祥競技＊筆者注記）は、今後大会種目から除外すべき」であると白眼視した議論が大日本体育協会内で出たほどであった（20 世紀日本文明史 体育 50 年 参照）。

日本は1919年（大正8年）第4回極東選手権競技大会に不参加であった。

次の第5回大会が1921年（大正10年）5月に上海で開催された。バスケットボール競技関係者には何としてでも参加させたいとの意思が強かったが、当時の実力は相手チームに勝利するに至らないとして多くの反対があった。それを近藤の強い要請により押し切り派遣が実現した。

同年の10月、近藤の尽力によって東京帝国大学農学部（現農学部）の駒場グラウンドで第1回全日本選手権大会が2日間、大日本体育協会の主催で開催された。参加チームは、東京YMCA、東京YMCA英語学校、横浜YMCA、大阪YMCAの4チームであった。

その後10年間、1930年（昭和5年）に大日本バスケットボール協会が設立されるまで、全日本選手権大会は大日本体育協会によって主催された。

大日本バスケットボール協会の設立時、近藤は「評議員」として参加し、当時の全日本選手権大会の審判も担当している。戦後、日本バスケットボール協会が設立された時も、近藤は「会賓」としてその名を連ねている。

イギリスに留学経験があった近藤は、1913年（大正3年）に来日してYMCAを中心にバスケットボールを指導していたF. H. ブラウンとのつながりで、「バスケットボール・バレーボール委員長」を務めたのではないかと推測される。また、海外時代にバスケットボールの競技経験があったか否かは明確でないが、全日本の大会審判を務めていたほどであることからバスケットボールのルールには精通していたのではないだろうか。

近藤は、バスケットボール競技への偏見が強く残った時代に、将来性を予測して第5回極東選手権競技大会参加への実現に尽力した。このことが、日本でのバスケットボールの普及（東京YMCAチームの誕生など）につながり、バスケットボールの全国組織のない時代に全日本選手権大会の開催実現にも貢献している。

山岳家であった近藤ではあるが、明治、大正、そして昭和の戦後までにわたる長い生涯を日本バスケットボール界に貢献した「恩人」である。

＜参考資料＞

- ・公益社団法人 日本山岳会 会報「山岳 64 号」
- ・バスケットボールの歩み 日本バスケットボール協会
- ・日本体育協会 50 年史 日本体育協会
- ・日本体育協会 75 年史 日本体育協会
- ・スポーツ大百科「スポーツ人名録」日本体育協会
- ・二十世紀文明史 体育五十年 著者 竹之下久蔵 昭和 25 年 7 月
- ・京都青年 第 33 号 大正 6 年 5 月 20 日
- ・大橋季吉編纂（広島県在住）「スポーツ人名録」

人物抄

鹿子木 基員 さん



鹿子木基員（もとかず）さんは、昭和9年(1934)生まれで83歳、東京駒込にお住まいでお元気である。ご承知の方も多いと思われるが、1936年ベルリンオリンピック・バスケットボールで13位に輝いた日本代表選手のセンターであった東大OBの鹿子木健日子（愛称ヒーロー）さんの弟さんである。

中学生3年になるときに6,3,3,4製の学制改革が実施された。そのとき、20歳年上のお兄さんの勧めで、武蔵中学へ入学してバスケットを始めたが、中学生当時、対外試合で勝ったことはない。

名指導者と言われた畑龍雄先生が直接指導する武蔵高校へ進み、上級生との力の差に苦しんだが、1年生の春に戦後初の外国チームとして来日したオールハワイと日本代表の試合を見て、日本のバスケットボールとの違いを目の当たりにした。

畑先生は、直ちに、ハワイの技術をフルに取り入れた練習を始めたので、鹿子木さんは高校1年の春練習から様変わりしたバスケットを習うことになった。ボールを見ないでドリブル、左右いずれの手でもできるボールハンドリング、パス、シュートの訓練を受けた。

秋田に遠征したときに、地元の先生から「ニシン（熱心）」というあだ名を頂戴したぐらいいに練習熱心だったので、高校2年では、上級生に交じって試合に出してもらえるようになり、インターハイでも勝ち進んだ。

武蔵から東京工業大学へ進んだ鹿子木さんは1年生からレギュラーになったそうである。栃木県の氏家高校の練習を手伝っていた鹿子木さんは、大学でも練習の企画立案を引き受けたそうである。振興会に所蔵の1953年発行の第4回関東大学リーグ戦のプログラムを見ると、東京工業大学選手名の真ん中に鹿子木基員さんの記名がある。

本誌「人物抄」にて元振興会会長でJR東日本㈱の初代社長を務められた故住田正二さんを取り上げた際、池田敏雄さんという人物を紹介したが、バスケットの縁というべきか鹿子木さんから池田さんが登場する。池田さんは日本のコンピューターの生みの親とも言われる方だが、バスケットにおいては中学時代に旧制九段中学の同窓会チーム一球会のセンターとして全国制覇に貢献したという怪物である。池田さんは囲碁ルール研究でも有名で、呉清源とテレビ対局する腕前だった。東京工業大学でもバスケットを楽しみ、鹿子木さんが大学生現役の頃練習を見に来てくれたそうで、鹿子木さんは池田さんが言われた言葉を今でも記憶していた。その言葉とは「バスケットボールは相手と騙しっこをするスポーツなのだから、パッとやるのだよ」であった。

鹿子木さんは大学卒業後、昭和33年(1958)、当時の三菱化成㈱黒崎工場に勤務した。

その頃九州の実業団では、有名選手で固めた八幡製鉄（後の新日鉄）、教育大学出身の八谷選手を中心とする東洋高压大牟田、全日本実業団の決勝を争ったこともある長崎造船所、熊本教員クラブなどが活躍していた。鹿子木さんの三菱化成は、市民大会レベルから始めて九州代表になるまで活動したそうである。

三菱化成では鹿子木さんが入社した1年後に体育館が完成した。その時、八谷さんが率いる東洋高压を招聘し、交歓会のあと翌朝まで酒豪で知られる八谷さんと飲み明かしたら

しい。

鹿子木さんは、昭和34年(1959)八幡製鉄の選手たちと、チームを作って国体九州代表になり東京国体に出場、昭和39年(1964)には三菱化成チームで全日本総合選手権大会へ出場し、松下電器と善戦している。

三菱化成(株)は、その後三菱化学となり現在では三菱ケミカルとして、産業界の重責を担っているが、鹿子木さんは、主として、合繊原料の分野で働いたそうで、身近な物ではペットボトルがある。

20世紀末期に三菱化成を定年退職した後は、身につけた品質や生産改善の技術を国際協力の場で活かす活動をする傍ら、母校東工大のバスケット部同窓会の設立に奔走した。自ら会長を務めた2013年には、東工大バスケットボール部85年史を発刊して、国会図書館や日本バスケットボール振興会に寄贈した。理工系の学校では、部活が同好会活動として認められているのだが、学生が就活する際には、部活の経験が話題になることが多いので、基礎教育の面で部活をより有効に活用することを提唱している。蔵前工業会という同窓会組織では、運営アドバイザーという終身の役目を引き受けている。年取ることを楽しもう！レッツ・エンジョイ・エイジングをモットーにして、今でも、現役の試合を見て厳しく論評するの生き甲斐とする一方、中学、高校、大学、各職場の仲間とともに、バスケットから始まった交遊を楽しんでいる。協会には貢献しなかったけど、身近なところでバスケットの振興に参加しなかったときはないと豪語している。

鹿子木さんは、畑先生が新体育の1946年6月号に書いた「バスケットする心」を信奉していて、バスケットボールについて理論的かつ哲学的に論じる。その話題について鹿子木さんの話からいくつか例をあげてみると、以下のような類例となったが、視点によってはバスケットボール技術の普及発展に一石を投ずるところもあって興味深い。

○トラベリングは慌ててプレーしているときに起こりやすい。つまり身体のどこかが異常になっているのではないか。最近「体がどもる」(伊藤亜沙著)という本を参考にしている。人間無くて七癖、コーチもプレーヤーも皆どもりだと考えると、育成の方策が浮かんでくる。

○ターンオーバーも同様、アシストからシュートを入れる連係動作だって、同じように考えて、よく観察すれば、知恵が浮かんでくることが多い。

○コート上で走っているときも、全体を見て状況を判断したことを身体にしっかりと伝えなければ、とっさの行動は起こしにくい。身体がどもり状態では瞬時に良い動きができない。

これらのことは中学生クリニックで結城講師が常々言っていることに共通する。つまりプレーヤーは目から情報を得て頭で判断し、身体に指令を出すのだが、身体がとっさに反応しなければ自分の予測に反した動きになってしまうのではないかということだった。

「学生の試合はよく観戦しますよ」という鹿子木さんは、試合をよく見ていると判断の遅れや身体の動作遅れがよく分かれると言われる。したがって、練習のシステムにおいても指導者がこれらのことを理解して、それぞれに適した改善のヒントを練習に取り入れることが肝要ではないかと。

鹿子木さんの話を聞いていると、練習などにおいて選手個々の身体の対応性も理論的または実践的に分析し、各々に適したヒントを与えながら個人の改善を図るような練習システムの研究も必要ではないかと感じた。現役時代は現場が好きでしたという鹿子木さんらしい持論であるが、ルールについても相当詳しく研究されているバスケットマンでもある。



日本のバスケットの歴史のひとこま

鹿子木 基員

－畑龍雄先生とバスケットボール－

心機一転誕生した日本の本格的プロ・バスケットBリーグの2016-2017シーズンは、日本男子バスケットの象徴である田臥選手を軸とした栃木ブレックスが初代王者に輝いた。田臥選手が能代工高でインターハイ3連覇を果たした頃からフォローしている私にとって先ずはめでたしである。今、私がバスケットを楽しむ対象は、母校バスケット部の応援だったり、昔の職場仲間との団らんだったりだが、プロとは遠く離れた底辺の活動も、Bリーグの影響を受けて活発になっていくようで嬉しい。

戦後間もない1940年代の後半、武蔵中学・高校で畑龍雄先生から、「へばったら頑張れ」のキーワードのもとで、「バスケットはダマシクラだよ」と教わり、「動く時にはノーモーションで」と指導され、いろいろな身体の使い方の厳密な習慣づけのための反復練習をした。「練習とは身体の使い方の習慣づけのための活動だ」と教えられ、「上体を起こして、膝を柔らかく屈伸」の習慣づけに常時余念がなかった。ゲーム練習中、しばしば動きを止められて「いまどこを見ていたか?」「何をするつもりだったか?」と聞かれて瞬間瞬間にどこを見るか、何をするのかが、とても大事なことが分かってきた。今は歳を取って分かっていても動けないが、見たり考えたり人に伝えることが楽しい。

1949年にハワイの邦人チームが来日して、日本のトッププレーヤー相手に、華麗なプレーを見せたとき、次の春休みの練習から、シュート、パス、ドリブルの練習方法がガラッと変わり、多様な動作をこなす練習が始まった。バスケットを始めたばかりの中学生が、畑先生の下でその革命的な瞬間を経験した。貴重な経験だった。私の高校時代は毎年インターハイに参加、大学は東京工業大学で2部だったが、地方の学校のバスケット部を指導した。就職した九州の工場ではチームをつくり、九州代表として全国大会にも出場した。

その間に、最初から舌を巻くほど印象付けられていた畑先生の観察眼の偉大さに対する畏敬の念は深くなるばかりだった。今、83歳になっても、母校の現役チームを応援する機会は少なくないが、いつも、畑先生の観察眼と教え方の半分でも自分のものにすることを目標に見ることが楽しみでもある。

バスケットのゲームは、年々、激しくなっている。チームで協力して行う攻撃的なディフェンスを初めて米国から取り入れたのは畑先生だが、防御がますます攻撃的になっている昨今である。一方、各プレーヤーの特徴を生かした上で連携も使って攻めるオフェンスについては、畑先生が指摘したように、シュートする力とパスやドリブルその他の攻撃技術とを分けてそれぞれを磨くことが重要で、決め手であるシュート力は益々个性的に発展していく時代である。練習の方法、プログラムや時間割も対応して進化して行くが、千差万別の個人の特性を最大限生かしていくための練習法や指導法、その為の環境整備が求められているようだ。

会員だより

－畑龍雄先生の驚くべき観察眼と旧制成蹊高校の全日本選手権制覇の快挙－

今は日本で、プロ・バスケットが定着する歴史的な時期なので、バスケットの歴史の一端、1931年（昭和6年）第10回全日本選手権大会で、旧制成蹊高校が早稲田大学等の強豪を破って初の王者になった快挙に焦点を当てて、その頃学校が創設され、バスケットに取り組み始め、その成蹊から多くを学んだ武蔵高校のバスケット部の畑龍雄少年と周辺の人たちの活動について知る範囲で紹介することにしたい。

1891年に米国で始まったバスケットが、YMCAを通じて日本に伝わったのは1908年と言われている、旧制成蹊高校では、学校創立間もない昭和初頭（1928年）に東京商大卒業生をコーチに招聘、化学の岩永源作教授が部長に就任、活発な活動を始めた。成蹊バスケットボール部50年史（1981年発行）によれば、「東京商大、第一高校、慶応大、東京高校、成城高校と練習試合を行い、第3回全国高校選手権の優勝を目指し、速攻一本やりで行く方針で、ガードがリバウンドしたボールをドリブルしないで止めずに前の3人に送ることだけに集中して1ヶ月間練習し、優勝候補の第八高校、甲南高校、水戸高校を連覇し決勝戦まで進出して、東京高校に22－16で惜敗した」と書いてあることなどから、筋の通った練習をした様子が分かる。

その後、1929年、1930年と全国高校選手権を連覇、1931年には、東京予選で立教大学を破り、神田YMCAコートで行われた全日本籠球選手権決勝で早稲田大学を破って高校チームが全国制覇する快挙を達成した。その時のメンバーには、ベルリン・オリンピックの日本バスケットボールチームの主将を務めた田中秀次郎、通称デンチューと強力なメンバーがいた。決勝戦は前半終わって、20－13でリード後半1点差まで追いつかれたが突き放して37対29で優勝した。

その記録の一部を紹介しよう：

前シーズン以来連戦連勝の成蹊高校チームは東京予選において大学リーグの覇者立大を破り、今また大阪外語、京大の両雄を粉砕し、昇天の勢いを駆って遂に早大に対し最後の一戦を交えて一気に画期的な選手権制覇を決定しようとしている。・・・中略・・・

（後半スタートの描写）スピーディーなショートパスとフットワークに独特な攻撃を開始せる成蹊は30秒にして金子左より野投を加えて差9点となる。早大も森沢をベンチに休ませ阪上を入れて新たに陣容を固め元気に攻め立てるも成蹊よくマークしてシュート機会を与えず。土肥焦って猛然ドリブルに抜きゴール間近でシュートに移るとき亀山ファールして2スローを許し、土肥二つとも失した後4分早大アウトのボールを阪上左コーナーより野投して漸く成り22-15と追う・・・

と詳しい描写が微笑ましい。

一方の畑先生は、1923年武蔵高校尋常科2年に編入してバスケットを始めた。6年生のとき関東高校リーグに参戦したが全敗だった。インターハイの東京予選でも2回戦で成蹊に敗退したが、畑先生らのチームメートは、成蹊を始めとする先進校のバスケットを観察研究し、翌年の関東リーグでは、10戦7勝、成蹊に次ぎ2位の成績を上げた。

会員だより

－畑先生は、米寿を祝う会資料の中で書いている－

10戦10敗の結果のあと、やみくもに練習して翌年は7勝3敗で第2位に輝いた。この経験は大きな驚きであったが、同時に「とても勝てないと思われる相手との差が僅かなものである」ということを気付かせることになった。この時期にすでにあることをしつこく繰り返すことによって習慣にするのが練習であることに気付いた。何をすべきかについてはゲームを沢山見ることによって発見した。この時期の、これらの気付きは、その後のコーチとしての生き方の基礎をなしている。

畑先生は旧制成蹊高校籠球部の創立10周年に際して、成蹊籠球会報創刊号（1936年1月30日成蹊籠球会発行）に「成蹊と私」を寄稿している。

その中で；

成蹊がオール・ジャパンに優勝するまでの輝かしい期間は、成蹊より2年遅れて部としての活動を始めた私たち武蔵としても、成蹊が優勝した時10戦10敗の全敗で6位、翌年は第2位に躍進し次年度にはインターハイの決勝で成蹊に敗れるまで進めたという時期でもあった。この記録は非常に幸運に恵まれたものであったに違いないが、私自身の知る限りこの間の努力においては敢えて人後に落ちなかったつもりである。当時全くコーチと言うものなしに進まなければならなかった私たちが、身近なよきチームであり、よき敵である成蹊から以下に多くのことを教えられたか到底数えられない。ボールを持ってコートに立てば目の前を成蹊のゾーンが踊る。本当にそうだった。言葉の綾なんかではない。だから帝大での会合で「田中より僕の方が成蹊のゾーンについて知っている」ととんでもないことを言って田中を困らせたこともある私だった。こうして成蹊、成蹊で練習を重ねて、公私の試合を交えるようになってからストレートで13回負け続けた。悔しいがどうしても勝てなかった。しかし、この恨み重なる敵は同時に私たちの最も敬愛する敵でもあった。

（中略）最後になって恐縮だが、部長岩永先生に、よそながらかねがね懐く敬慕の気持ちを表明し、末長くよき成蹊の指導者として間接的には私たちをもご指導くださらんことを祈る。

1931年の2月に行われた全日本籠球選手権で全国制覇の快挙を成し遂げた成蹊高校籠球部のメンバーと畑先生たちが成し遂げたエピソードがある。成蹊高校を初め武蔵高校、その他の高校のバスケット・マン達の多くは、卒業して、東京帝国大学の入試を受けたが不合格になって、浪人生活を余儀なくされた。成蹊OBとなった田中、井上らの有力プレーヤー達は、武蔵OBとなった畑先生ら、他校のOBも巻き込んで籠人クラブと言うチームをつくり、11月に行われた神宮大会（国体に相当）に出場し、早稲田大学の現役OB混合チームを接戦の末逆転して優勝した。武蔵高校は、ベルリン・オリンピックでセンターを務めた長身、鹿子木健日子が参加して1933年にインターハイを初めて制覇した。籠人クラブの面々は、翌年の入試には合格して、東京帝大のバスケットの黄金時代を築くことになった。

会員だより

ーむすびにー

さて、最後になったが、私は、武蔵高校（新制）で3年間、インターハイ（第1，2，3回）に参加後、東京工業大学を経て三菱化成（今は三菱ケミカル）でバスケットを続け、今も、学校と職場のバスケ仲間と厚い交流をしている。通称7年制高校リーグでの同期の成蹊の方との交流、大学の同窓会会長の前任者も後任者も成蹊高校出身で、特に、前任者の岩永昭二（故人）さん、岩永源作先生の長男で、本人も成蹊高校のバスケット部の部長も務められたそうである。

東京工業大学は関東大学リーグの5部に位置している。ブロックは違うが成蹊大学との交流が厚い。秋のリーグ戦では、両校ともブロック代表としてトーナメントに出場している。その交流を通じて伺ったところでは、成蹊学園では、今年、中、高、大学を総合した同窓会組織を立ち上げるとのことである。この組織の立ち上げが今年の籠球部創立90周年を記念する行事の一角として計画すると伺って明るい気持ちになった。

大学でも、職場でも、バスケットが盛んに楽しまれ、バスケットが広く振興することを願っている。

以上

資料

- (1) 成蹊籠球会報（創刊号） 1936年11月30日発行 成蹊籠球会
- (2) 成蹊バスケットボール部50年史（1981）
- (3) 写真 東京帝大バスケットメンバーの写真（田中秀次郎、畑龍雄、鹿子木健日子ら）
- (4) 大日本バスケットボール協会資料 1931年10月第一巻 No2



前列左端 鹿子木健日子さん 後列右から二人目畑さん

会員だより



リングに向かって“飛べ”10年後の子供たち

鈴木 承二

その1：美笹中学校女子バスケット部

5月8日、埼玉県戸田市、市立美笹中学校バスケットボール部女子の練習を見学する為に訪問した。訪問のきっかけは指導される先生と部員が熱心なプロバスケットファンで、



東京都板橋区立「小豆沢体育館」をホームにしているB3リーグ所属の東京エクセレンスのゲーム観戦に訪れたことがはじまりであった。エクセレンス後援会のお手伝いをしている関係で、小、中学校とミニバスの子供達を担当しており、「美笹中学校」のバスケット部応援団の方々と知り合いになり、先生及び生徒たちが観戦に訪れた際にアテンドしたことから、この度の学校訪問になった。

美笹中学校女子バスケット部は総勢19名、沖縄出身の又吉美香先生が熱心に指導されている。先生は教員になられて7年目、美笹中学校は3年目を迎えている。

チームの今年の目標は「県大会出場」であり、指導理念は「全力～仲間～伝統で一所懸命になる（前任の先生から引き継ぎの言葉）」である。相手がどうこうではなく、ディフェンスから走るチーム「美笹らしいバスケットをしよう」を合言葉に練習に励んでいる。



会員だより

一般に他の学校も体育館の使用は週 1～2 回、16 時から 18 時までの 2 時間くらいが普通で、その他の日は「校庭片隅のバスケットコート」である。基本は走ることが主、雨の日は校舎の廊下でのストレッチ等による身体作り、バスケットの練習として決して恵まれた環境ではない。



又吉先生によれば、他の学校も多分同じ様で、その中で勝ち抜くためには、他人一倍の練習と志を高くしたチームにならなければならない、目標は達成できない。

特に我が校は「サイズがないチーム」なので「一生懸命ボールを追って走り抜く」ことに徹底し、ゴールに向かって走る姿に応援したくなるチームを目指しているとのこと。

最後に「子供達と一緒に成長していきたいと考えている」と言われました。

<見学記>

中学女子のバスケットチームとしてごく平均な上背だが、とにかく良く“走りまくって”声を出しているチームである。バスケ好きの仲間が多く、互いに“切磋琢磨”して走りこんでいる。また早さもあり今後が期待できる。シュートの基本が不足でボールを受け取ってから、持ち替えが多くロスを生んでいることも事実で、せつかく早く走りこんでも確実なシュートが出来ていないので、この辺の練習を積み上げることが大切である。

又吉先生そしてチームのメンバーに一言、見学させて頂き有難うございました、夏の大会には是非“初戦突破と県大会出場”を目指し、中に秘めた熱い魂を吐き出してください。



会員だより

その2：ミニバスチーム・タカシックス

東京板橋区で活躍するミニバスチームに注目したい。

チーム名：「タカシックス」（高島第六小学校をホームコートのミニバスチーム）
ヘッドコーチ：野々宮 旭（青森県の強豪 十和田工業高校の PG として活躍）
チーム理念：バスケットを通じて、子供達の自主性と協調性を育み、それが、人間形成力に
メンバー：板橋区内在学の小学1年～6年 男女（随時募集中）
練習：火曜日 18：00～
：土・日 12：00～18：00（体育館の使用状況により時間は変更有）
連絡先：taka6m.b.c@gmail.com

野々宮ヘッドコーチの指導方針：



野々宮ヘッドコーチ

これらのことから、“対話”を常にすることが非常に大事である。

それがメンバーとの共通理解につながり、協調性（ア・ウンの呼吸）が生まれる等のことが、バスケットに限らず、世の中に出た時も役に立つ。子供達が理解できるまで繰り返し指導するように努めていると思っている。

チームメンバーに、「自ら考え、自ら行動して、自ら意見を言えるように」と常々、話をしている。「何故そうしなければならないか」、コート上でプレーをする時には、自分で考え、判断をしなければならないからだ。

一方、プレーは、自分だけが思って判断し行動しても、次に繋がらず止まってしまう。自分の思いが仲間のプレーヤーには伝わらないといけない。ここでコミュニケーションを取ることの必要性が大事であることが浮かび出てくる。



チームメンバー

会員だより

訪問記：

夕方火曜日の練習前に体育館入口にメンバーが整列し入場のあいさつ。シューズの履き替えが終わると、各自持参の雑巾を手にコートの“拭き掃除”。それが終了すると、整列してコート全面でのランニング、ストレッチと上級生の掛け声にならないメンバーの掛け声、大声で” テキパキ” と進む。…

ヘッドコーチのバスケ歴が示すように、他のクラブとの比較では、ドリブル（ハンドリング）、速い攻めでの反復練習に重きをおいている。特にドリブルでは基本とボールを扱う総てのメニューをこなして、中学生に“劣らない”ハンドリングを見せる。

テキパキとした練習メニューの切り替え、声の出し方は、日頃の訓練の証しであり、特に低学年での

“ボールに慣れる”手先感覚をつかんでいて、楽しみなチームである。この子供たちが「リングに向かって“飛べ”10年後の子供達」のタイトルの様に成長するのが期待できるミニバスチームである。



コートの“拭き掃除”

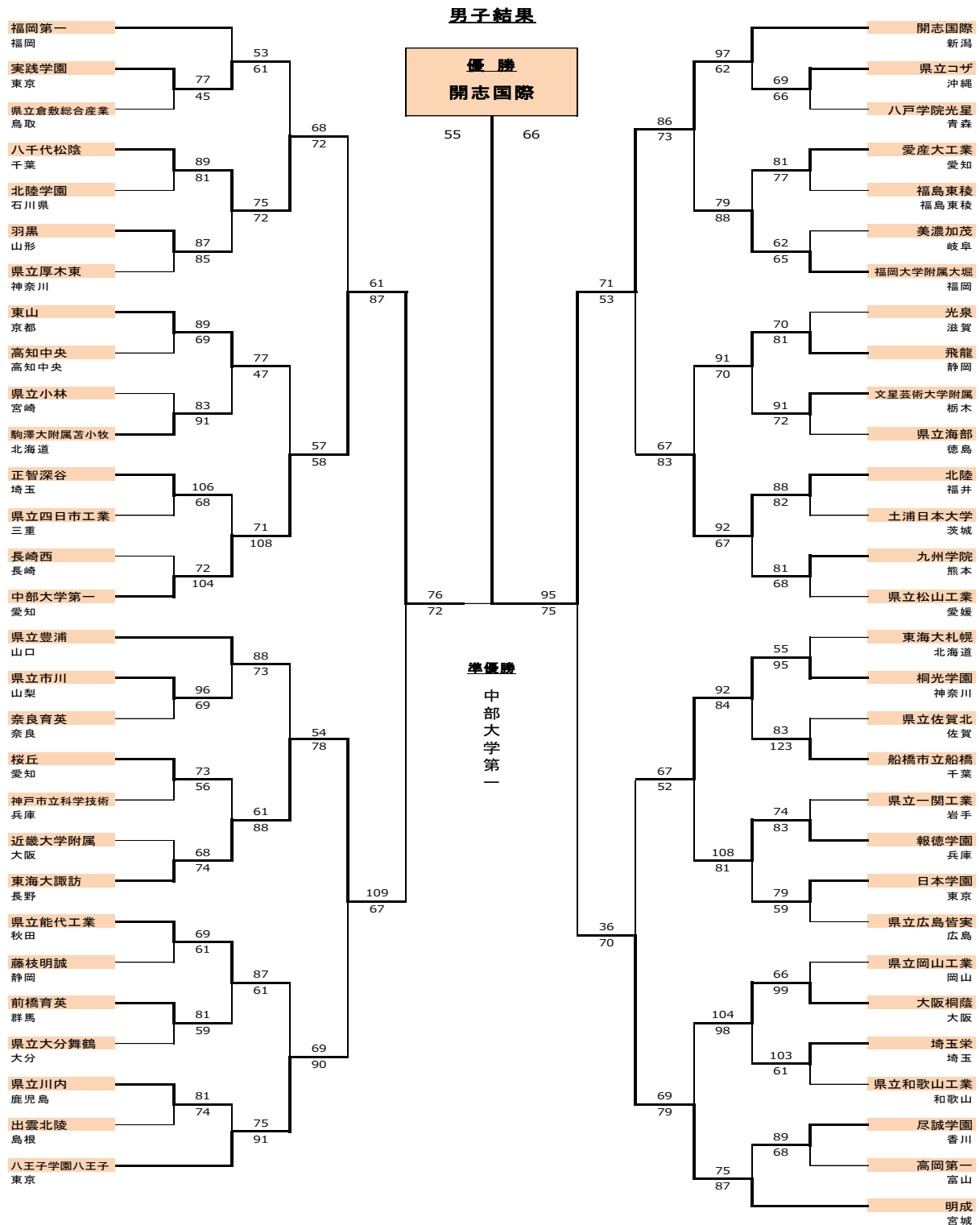


ドリブル練習

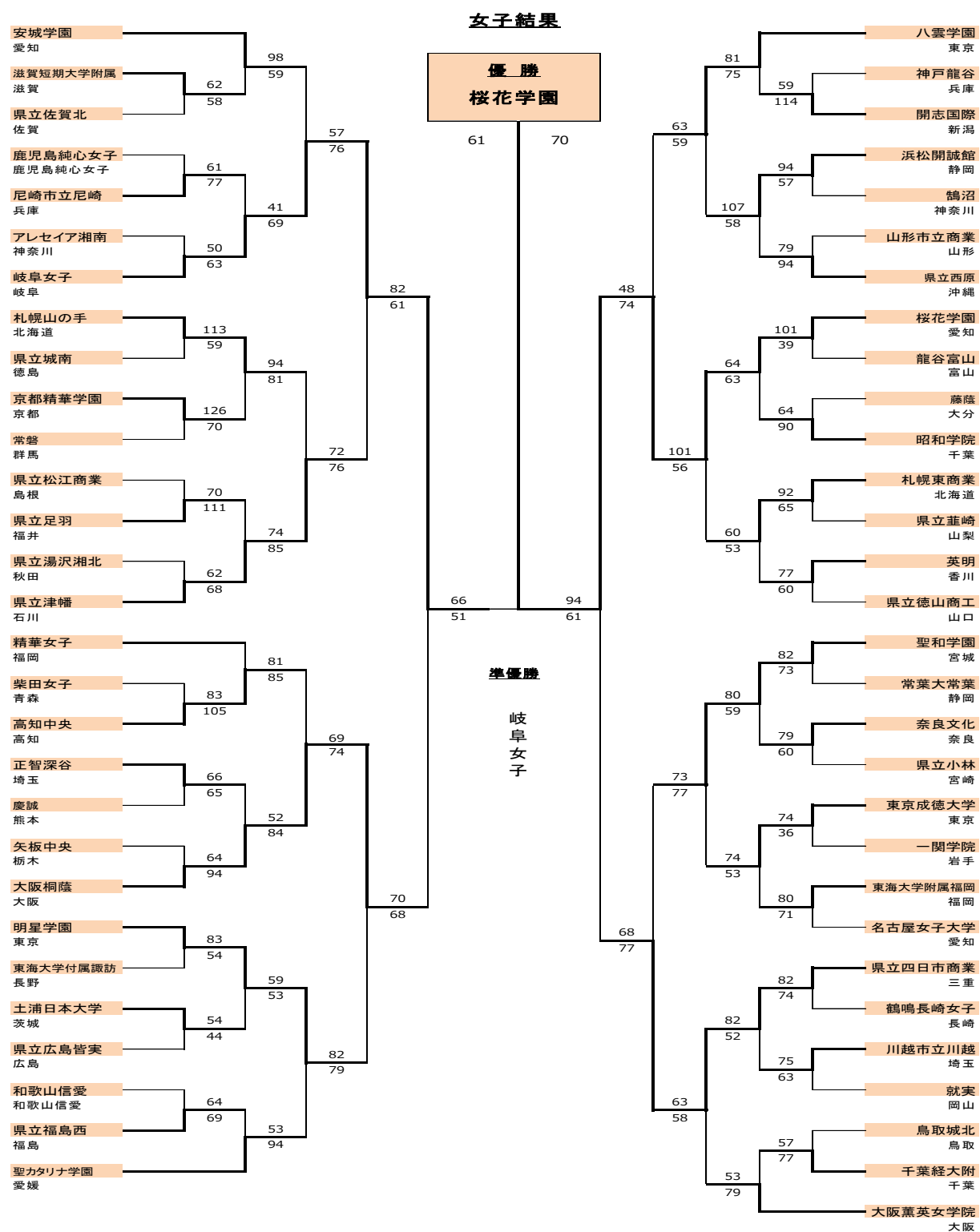
平成30年度インターハイの結果

[編集部]

全国高校総合体育大会バスケットボール競技は、8月2日から7日まで愛知県岡崎市において開催され、男子においてはこれまでの決勝進出伝統校に代わって、新潟代表の開志国際高校が優勝した。ちなみに、この高校のヘッドコーチは千葉ジェッツで活躍している富樫選手のお父さんである。



女子においては、往年の優勝校という伝統あった愛知の桜花学園高校と岐阜県の岐阜女子高校がノーシードから決勝戦へ進み、桜花学園に軍配が上がった。桜花学園は2年ぶり23回目のインターハイ優勝。



Bリーグ 2018～19 シーズン

[編集部]

Bリーグの2018～19シーズンは、昨シーズンにおけるB1、B2の入れ替え戦結果により、B1に秋田と福岡が上がり、西宮と島根がB2に降格した。その結果、B1では、東地区に秋田が入り、川崎が東地区から中地区へ、名古屋Dが中地区から西地区へ移動した。

各クラブには、新人の加入と移籍があり、昨年度とは相違する激戦が見られることを期待したい。ここにB1リーグについて所属地区を表記する。

[B1]

地区	クラブ名	略称	ホームアリーナ
東地区	レバンガ北海道	北海道	北海きたえーる
	秋田ノーザンハピネッツ	秋田	CNAアリーナ★あきた
	栃木ブレックス	栃木	ブレックスアリーナ宇都宮
	千葉ジェッツ	千葉	船橋アリーナ
	アルバルク東京	A東京	青山学院記念館
	サンロッカーズ渋谷	SR渋谷	アリーナ立川立飛
中地区	川崎ブレイブサンダース	川崎	川崎市とどろきアリーナ
	横浜ビー・コルセアーズ	横浜	横浜国際プール
	新潟アルビレックスBB	新潟	シティホールプラザアオーレ長岡
	富山グラウジーズ	富山	富山市総合体育館
	三遠ネオフェニックス	三遠	豊橋市総合体育館
	シーホース三河	三河	ウィングアリーナ刈谷
西地区	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ	名古屋D	ドルフィンズアリーナ
	滋賀レイクスターズ	滋賀	ウカルちゃんアリーナ
	京都ハンナリーズ	京都	ハンナリーズアリーナ
	大阪エベッサ	大阪	府民共済SUPERアリーナ
	ライジングゼファー福岡	福岡	福岡市民体育館
	琉球ゴールデンキングス	琉球	沖縄市体育館

また、外国籍選手と帰化選手（満16歳となったのちに国際法に基づく帰化によって日本国籍を取得した選手）とのオンザコートルールが下記のように変更された。

- (1) Bクラブがリーグ登録できる外国籍選手数は1クラブ合計3名以内とし、帰化選手については外国籍選手と別途に1クラブ1名とする。
- (2) 試合にエントリーすることができる外国籍選手は前項のうち1クラブ合計2名以内とし、帰化選手は外国籍選手と別途に1名以内とする。
- (3) 試合中同時にプレーできる外国籍選手数は試合を通して2名以内とし、帰化選手は試合を通して外国籍選手2名と同時にプレーできる。

Bリーグ3シーズン目となる今回は、10月4日（木）に第1節を開幕して第36節までのレギュラーシーズンを実施する。また、チャンピオンシップにおけるクォーターファイナル・セミファイナルの3試合目は別の日に開催し、前後半各5分の試合はなくなる。

B 1・B 2リーグでは、レギュラーシーズン開幕前の9月7日（金）～9日（日）に、16クラブによりアーリーカップ2018が、宮城県ゼビオアリーナ仙台、栃木県ブレックスアリーナ宇都宮、及び大阪府大阪府立体育館で開催される。

B 1リーグの第1節と第2節（10月14日まで）の競技日程を下記に示す。

第1節

日付	曜日	開始時刻	対戦相手	場所
10.04	木	19:05	千葉 VS 川崎	船橋
10.06	土	14:05	秋田 VS 琉球	CNA
			三遠 VS 京都	豊橋
			滋賀 VS 新潟	ウカル
		15:05	北海道 VS 大阪	北海きた
			千葉 VS 川崎	船橋
			A東京 VS SR渋谷	立川立飛
		16:05	名古屋D VS 三河	ドルアリ
		18:05	富山 VS 横浜	富山市総
			福岡 VS 栃木	福岡市民
10.07	日	13:05	富山 VS 横浜	富山市総
		14:05	北海道 VS 大阪	北海きた
			秋田 VS 琉球	CNA
			三遠 VS 京都	豊橋
			滋賀 VS 新潟	ウカル
			福岡 VS 栃木	福岡市民
		15:05	A東京 VS SR渋谷	立川立飛
			名古屋D VS 三河	ドルアリ

第2節

日付	曜日	開始時刻	対戦相手	場所
10.11	木	19:05	新潟 VS 秋田	東総合
10.12	金	19:05	栃木 VS 富山	ブレアリ
			川崎 VS 滋賀	とどろき
			新潟 VS 秋田	東総合
			京都 VS 横浜	ハンアリ
			大阪 VS 福岡	住吉SC
		19:35	琉球 VS 名古屋D	沖縄市
10.13	土	14:05	三河 VS A東京	WA刈谷
			京都 VS 横浜	ハンアリ
			大阪 VS 福岡	住吉SC
			琉球 VS 名古屋D	沖縄市
		17:05	川崎 VS 滋賀	とどろき
			千葉 VS 三遠	船橋
		18:05	栃木 VS 富山	ブレアリ
			SR渋谷 VS 北海道	青山学院
10.14	日	14:05	SR渋谷 VS 北海道	青山学院
			三河 VS A東京	WA刈谷
		16:05	千葉 VS 三遠	船橋

Wリーグ第20回大会(2018～19)競技日程

[編集部]

Wリーグの第20回大会(2018～19)は、9月のワールドカップ2018の余韻が残る、10月19日(金)に開幕してレギュラーシーズンを2月10日(日)までとし、下記12チームによる2回戦総当たり方式で、各チーム当たり22試合、合計132試合を行う。

[出場チーム]

順位は昨レギュラーシーズンのもの

順位	チーム名	略称	本拠地
1	JX-ENEOSサンフラワーズ	JX-ENEOS	千葉県柏市
2	デンソー アイリス	デンソー	愛知県刈谷市
3	トヨタ自動車 アンテロープス	トヨタ自動車	愛知県名古屋
4	シャンソン化粧品 シャンソンVマジック	シャンソン	静岡県静岡市
5	富士通 レッドウェーブ	富士通	神奈川県川崎市
6	三菱電機 コアラーズ	三菱電機	愛知県名古屋
7	トヨタ紡織 サンシャインラビッツ	トヨタ紡織	愛知県刈谷市
8	日立ハイテク クーガーズ	日立ハイテク	茨城県ひたちなか市
9	アイシン・エイ・ダブリュウイングス	アイシンAW	愛知県安城市
10	東京羽田 ヴィッキーズ	東京羽田	東京都大田区
11	山梨クィーンビーズ	山梨QB	山梨県甲斐市
12	新潟アルビレックスBBラビッツ	新潟	新潟県新潟市

昨第19回のレギュラーシーズンは、1位のJX-ENEOSが1敗で勝率97%の独走、2位、3位が7敗で78.8%であり、11位が3勝の91%、最下位が全敗と、予想された通り、企業のバックアップに頼れないチームの大敗で終わった。

今シーズンは、女子日本代表に選出された選手が各チームに戻ってからの活躍が予想され、上位チームの対戦によるレギュラーシーズンでの熱戦が期待される。

今回、7月6日に公表された競技方式でのプレーオフは、まず、レギュラーシーズンの5位・8位と6位・7位による1戦先勝方式でセミクォーターファイナル、レギュラーシーズン3位と6位・7位の勝者、4位と5位・8位の勝者、各2チームによる1戦先勝方式のクォーターファイナルがある。続くセミファイナルは、1位と4位グループの勝者、2位と3位グループの勝者、各2チームによる2戦先勝方式、ファイナルは、セミファイナルの勝者2チームによる2戦先勝方式で優勝を決める。

昨19回大会レギュラーシーズンも、それ以前同様、上位チームと下位チームの力量の差が目立ったが、今シーズンはどうであろうか。本拠地での試合を含めて、観客は接戦を期待する。たとえ敗れたとしても競り合っただけの結果であれば納得できるだろう。しかし、いわゆるワンサイドゲームでは、興味を削がれるとともに観客離れにもつながってしまうのが、スポーツ界の常である。下位チームの強化と勝利への奮起を望みたい。

新人も出そろったようだが、クラブチームの強化にはWJBLによる支援も必要では。リーグ全体の盛り上がりを期待したい。

レギュラーシーズン 第4週までの競技日程 (10/19~11/11)

2018.8.3. 現在

第1週	富士通	vs	東京羽田	10/19	19:00	神奈川県座間市	スカイアリーナ座間	
	JX-ENEOS	vs	山梨QB	10/20	14:00	千葉県成田市	成田市中台運動公園体育館	
	新潟	vs	トヨタ自動車	10/20	16:00	新潟県阿賀野市	阿賀野市水原総合体育館	
	or	デンソー	vs	日立ハイテック	10/20	13:00	愛知県刈谷市	ウイングアリーナ刈谷
	トヨタ紡織	vs	三菱電機	10/20	15:30	愛知県刈谷市	ウイングアリーナ刈谷	
	or	アイシンAW	vs	シャンソン	10/20	14:00	広島県広島市	マエダハウジング東区スポーツセンター
	富士通	vs	東京羽田	10/20	15:00	神奈川県座間市	スカイアリーナ座間	
10/19(金)	JX-ENEOS	vs	山梨QB	10/21	14:00	千葉県成田市	成田市中台運動公園体育館	
	新潟	vs	トヨタ自動車	10/21	14:00	新潟県阿賀野市	阿賀野市水原総合体育館	
	デンソー	vs	日立ハイテック	10/21	13:00	愛知県刈谷市	ウイングアリーナ刈谷	
	トヨタ紡織	vs	三菱電機	10/21	15:30	愛知県刈谷市	ウイングアリーナ刈谷	
	or	アイシンAW	vs	シャンソン	10/21	14:00	広島県広島市	マエダハウジング東区スポーツセンター
	第2週	新潟	vs	JX-ENEOS	10/26	19:00	新潟県上越市	リージョンブラザ上越
		山梨QB	vs	日立ハイテック	10/27	13:30	山梨県北杜市	北杜市高根体育館
トヨタ自動車		vs	アイシンAW	10/27	13:00	愛知県豊田市	スカイホール豊田	
or		デンソー	vs	東京羽田	10/27	13:00	北海道北見市	北海道立北見体育センター
シャンソン		vs	トヨタ紡織	10/27	15:00	愛媛県東温市	ツインドーム重信	
or		富士通	vs	三菱電機	10/27	15:00	神奈川県川崎市	川崎市とどろきアリーナ
新潟		vs	JX-ENEOS	10/27	13:00	新潟県上越市	リージョンブラザ上越	
10/26(金)	山梨QB	vs	日立ハイテック	10/28	13:30	山梨県北杜市	北杜市高根体育館	
	アイシンAW	vs	トヨタ自動車	10/28	14:00	愛知県安城市	安城市体育館	
	東京羽田	vs	デンソー	10/28	13:00	北海道北見市	北海道立北見体育センター	
	トヨタ紡織	vs	シャンソン	10/28	13:30	愛媛県東温市	ツインドーム重信	
	富士通	vs	三菱電機	10/28	14:00	神奈川県川崎市	川崎市とどろきアリーナ	
	第3週	JX-ENEOS	vs	日立ハイテック	11/3	17:00	青森県三沢市	三沢市国際交流スポーツセンター
		アイシンAW	vs	新潟	11/3	14:00	愛知県蒲郡市	蒲郡市民体育センター
山梨QB		vs	東京羽田	11/3	15:30	山梨県南アルプス市	楯形総合体育館	
トヨタ自動車		vs	トヨタ紡織	11/3	13:00	愛知県名古屋市中区	名古屋市中区スポーツセンター	
デンソー		vs	三菱電機	11/3	16:00	愛知県名古屋市中区	名古屋市中区スポーツセンター	
富士通		vs	シャンソン	11/3	13:00	神奈川県平塚市	トクエイセキュリティ平塚総合体育館	
日立ハイテック		vs	JX-ENEOS	11/4	15:30	青森県三沢市	三沢市国際交流スポーツセンター	
11/3(土)	アイシンAW	vs	新潟	11/4	14:00	愛知県蒲郡市	蒲郡市民体育センター	
	山梨QB	vs	東京羽田	11/4	13:30	山梨県南アルプス市	楯形総合体育館	
	トヨタ自動車	vs	トヨタ紡織	11/4	13:00	愛知県名古屋市中区	名古屋市中区スポーツセンター	
	三菱電機	vs	デンソー	11/4	16:00	愛知県名古屋市中区	名古屋市中区スポーツセンター	
	富士通	vs	シャンソン	11/4	14:00	栃木県小山市	栃木県立県南体育館	
	第4週	JX-ENEOS	vs	アイシンAW	11/10	14:00	秋田県由利本荘市	アイスアリーナ(由利本荘アリーナ)
		東京羽田	vs	日立ハイテック	11/10	14:00	東京都大田区	大田区総合体育館
新潟		vs	トヨタ紡織	11/10	14:00	新潟県五泉市	五泉市総合会館	
山梨QB		vs	三菱電機	11/10	13:30	山梨県富士吉田市	鐘山スポーツセンター総合体育館	
トヨタ自動車		vs	富士通	11/10	15:00	福岡県北九州市	北九州市立総合体育館	
デンソー		vs	シャンソン	11/10	15:00	奈良県橿原市	ジェイテクトアリーナ奈良	
アイシンAW		vs	JX-ENEOS	11/11	13:00	秋田県秋田市	秋田県立体育館	
11/10(土)	日立ハイテック	vs	東京羽田	11/11	14:00	茨城県ひたちなか市	ひたちなか市総合体育館	
	新潟	vs	トヨタ紡織	11/11	12:00	新潟県五泉市	五泉市総合会館	
	山梨QB	vs	三菱電機	11/11	13:30	山梨県富士吉田市	鐘山スポーツセンター総合体育館	
	富士通	vs	トヨタ自動車	11/11	14:00	福岡県飯塚市	飯塚第1体育館	
	シャンソン	vs	デンソー	11/11	16:00	大阪府大阪市	府民共済SUPERアリーナ	

WJBL 提供

日本協会平成30・31年度役員

[編集部]

公益財団法人日本バスケットボール協会は、6月23日に開催された全国評議員会において、平成30・31年度役員につき以下の通り決定した。

役 職	氏 名	新再任	備 考
会 長	三屋 裕子	再任	※代表理事／(株)サイファ顧問
副会長	兒玉 幸長	再任	※代表理事／京都府協会 会長
〃	西井 歳晴	再任	W J B L 専務理事
〃	大河 正明	再任	B . L E A G U E チェアマン
専務理事	田中 達博	再任	J B A 事務総長
理 事	門川 浩人	再任	愛知県協会 専務理事
〃	日越 延利	再任	沖縄県協会 専務理事
〃	山本 一郎	再任	J X 不動産(株)代表取締役社長
〃	大野 健男	再任	千葉県協会 専務理事
〃	宇田川 貴生	新任	J B A 審判委員長
〃	境田 正樹	再任	弁護士、東京大学理事
〃	間野 義之	再任	早稲田大学スポーツ科学学術院教授
〃	藤原 修	再任	岩手県協会 専務理事
〃	吉田 長寿	再任	J B A 事務次長
〃	東野 智弥	再任	J B A 技術委員長
〃	守屋 志保	新任	江戸川大学准教授・江戸川大学女子部監督
〃	浜武 恭生	新任	(株)フェニックス代表取締役社長
〃	葦原 一生	再任	B . L E A G U E 常務理事／事務局長
監 事	中森 真紀子	再任	公認会計士・税理士
〃	須永 功	再任	税理士

事務局だより

[総務部]

◇会費納入のお願い

今年度会費の納入をお願いしておりますが、まだ会費の納入がお済みでない方は納入をお願いいたします。振興会は会員の皆さんの会費によって運営されておりますので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

振込み口座番号

ゆうちょ銀行 00100-3-316035
NPO法人日本バスケットボール振興会

三菱UFJ銀行 神保町支店
普通預金口座 1684743
特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

みずほ銀行 丸の内中央支店
普通預金口座 1004687
特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

◇秋の講演会予定

11月に秋の講演会・交流会を予定しています。詳細は、改めてご案内します。

◇新事務局員

このほど、事務局勤務として新たに次の二人が参加することになりました。いずれも事務局業務の軽減と分散化による効率化を目指した対応です。

事務所は、毎週火曜日と木曜日に駐在することとしています。ご協力をお願いします。事務局にはメンバーの方々が交代して勤務しています。 ご了承ください。

今井文雄さん （出光興産株式会社・実業団連盟総務委員会 出身）

植野紀子さん （上智大学バスケサークル「APES」出身）

プラザ こぼればなし

- ◇ 本年度の全日本バスケットボール選手権大会は、8月に都道府県の代表が決まり、予選第1ラウンドが、9月15日から17日にわたり、東日本大会、中日本大会、そして西日本大会の3地域により、トーナメント方式で開催される。東日本大会は仙台大会（宮城県）として男女それぞれ15チームを4グループに分け、中日本大会は岐阜大会（岐阜県）として男女それぞれ15チームを4グループに分けるが、西日本大会は周南大会（山口県）として男女それぞれ17チームを5グループに分けて勝者が決められる。次のプラザ80号で結果を報告の予定である。
- ◇ バスケットボール競技の同好者によるチーム作りが、特に現役時代を過ぎた面々に盛んになっており、各種交歓大会も国際的な様相を呈している。バスケットのメジャー化に向けてプレイヤーの活躍場所を幅広く設けたいものである。連盟、協会として、バスケットボール活動への統制は必要だろうが、がんじがらめの統制ではなく、より多くの同好者が容易にゲームに参加し、かつプレーできる環境も普及面から大切であろう。
- ◇ 男子日本代表チームがワールドカップ予選で4連敗したのち、第3ウィンドウで2連勝して二次予選に進出できたことは嬉しいニュース。今まで代表選手に不足していた勝ちに行く強気のプレーが、NCAAで活躍する八村選手の力強いプレーにより引き出された感が強い。また、日本国籍を得たファジーカス選手のリバウンド力もチームに安心感をもたらしていた。日本代表選手が、積極的に自分が得点するという気迫を学び取ってくれたものと信じる。男子日本代表が二次予選を勝ち抜いて、女子日本代表同様、ワールドカップへ駒を進めることに期待する。
- ◇ ジョージ・ワシントン大学を卒業してNBAを目指す渡辺雄太選手は、NBAのサマーリーグのため今回の日本代表に参加できなかった。その後のニュースで、NBAメンフィス・グリズリーズと「ツーウェー契約」を結んだとのこと。「ツーウェー契約」の場合、下部リーグのチームに所属しながら一定期間NBAに出場が可能となるので、この機会でのNBA出場に期待したい。
NBAのレギュラーシーズンは10月から翌年4月までで、9月から本格的な活動に入るので、渡辺選手はNBAの出場機会を得るためこれに集中する必要があるだろう。従って、日本代表としてワールドカップ予選に参加することは無理なのだろうか。
- ◇ 振興会が運営上の財源確保のため、各都道府県協会にプラザの購入を働きかけたところ、既に数県から購入に協力する旨の申し出があり、協力金も振り込まれた。
この先、編集部では各都道府県のバスケットボール情報も積極的に取り上げていく方針であり、都道府県諸団体におきましては情報の連絡にご協力をお願いします。
<連絡先> TEL/FAX 03-3219-9311
E-Mail sinkokai@jbbs.jp

N P O 法人
日本バスケットボール振興会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-40
豊明ビル 301号室
電話／F A X (03) 3219-9311
メール sinkokai@jbbs.jp
